田辺聖子を読みたい

しんどい時代にこそ

大阪らしい作家にまつわる講座を名建築で

ナカノシマ大学2026年5月講座

左／生まれも育ちも大阪・福島の田辺聖子（1928～2019）は生涯、拠点を関西から移さなかった
右／95年前の昭和6年（1931）、渡辺節・村野藤吾の師弟コンビで誕生した、船場の綿業会館が会場

5/23（土） **14:00～15:40**（綿業会館見学13:00～13:40）

会場 **綿業会館**（新館中会場／中央区備後町2-5-8／地下鉄本町駅・堺筋本町駅から徒歩7分）

受講料 **3,500円**（綿業会館見学含む）　定員 **60名**

講師 **中 周子**（大阪樟蔭女子大学名誉教授・田辺聖子文学館館長士）

主催 ナカノシマ大学事務局（株式会社140B）
協力 大阪樟蔭女子大学　中央公論新社　綿業会館

「かわいいもの」「大阪的ユーモア」をずっと大事にした作家の真髄に触れたい

「田辺聖子が生きていたらどう思うだろう?」。中東における一触即発の緊張状態が収まらず、政治家だけでなく一般人の間でも建設的議論の真逆のような言葉の応酬に明け暮れる毎日。でも人間はそんな感情をユーモアで包んで、不毛な対立を繰り返す同士も腹を割って話をするようにもなれる。

ナカノシマ大学では、大阪が生んだコミュニケーションと会話文の天才、田辺聖子の初講座を開きます。没後7年のいま、こんな時代だからこそ彼女の作品を改めて掘り起こすことが意義深いと考えています。会場は、昭和39年（1964）4月11日、田辺聖子の「芥川賞受賞記念パーティー」が開かれた、大阪を代表する名建築、綿業会館（重要文化財）。田辺聖子作品のオーソリティ、中周子先生を講師に迎えて、毒舌とユーモア溢れる文体に触れ、あたたかくほっこりする時間をみなさんと共に過ごしたいと思います。

〈講師からのメッセージ〉

大阪をこよなく愛した作家・田辺聖子の作品は、大阪の歴史と文化、そして大阪弁との関わりをぬきには語れません。生まれ育った大阪での日々を描く自伝風小説をはじめ、大阪を舞台にした渾身の力作『花狩（はながり）』と芥川賞受賞に輝いた『感傷旅行（センチメンタル・ジャーニイ）』を取り上げて、大阪愛を読み解きます。豊穣な田辺文学の世界を、田辺さんと縁の深い綿業会館で、皆さんとご一緒に楽しみたいと思います。

講師の中 周子さん

なか・しゅうこ　大阪樟蔭女子大学名誉教授。言語文化学博士。2007年6月に樟蔭学園内に創設された田辺聖子文学館の運営に開館当初から携わり、2020年から館長に。開館式当日にお会いした田辺さんの笑顔は忘れられず、『田辺聖子の万葉散歩』（中央公論新社/当日、会場でも販売）等の解説や講演によって田辺聖子の人と文学の魅力をフレンドリーな語り口で伝えている。

→受講申込は、こちらのQRコードからナカノシマ大学のWEBで受付します。